

# ガラスがX線で見つけられること知ってますか？

川崎の帝京大病院

## ガラス片残し縫合

### 8センチ エックス線検査で見逃す

川崎市高津区の帝京大医学部付属溝口病院（沖永思津子院長）で昨年11月、ガラスで首を切った男性患者を同病院の女性研修医が治療した際、男性の体内に残ったガラス片に気付かなかったまま傷口を縫合していたことが24日、明らかになった。病院側は先月下旬、ミスを認めて男性に謝罪し、ガラス片を摘出した。

病院によると、この患者は同市内に住む70歳代の男性。昨年11月、ガラス戸に頭から倒れ、あごから首にかけて4カ所を切って救急車で同病院に運ばれ、入院した。当時、医師1年目だった研修医（24）が男性の治療を担当、頭部をエックス線撮影して確認した際、ガラス片を見落とし、そのまま傷口を縫合したという。

男性は同12月中旬に退院したが、先月になって首に血がにじむなどの異変を感じたため、同病院で改めて診察を受けたところ、長さ

8センチのガラス片で見ついているのが見つかった。病院側は男性に影響はないと判断し、レントゲンの骨とガラス片の写っており、分かった明らかに関係者に口頭で話している。二度とこの

(平成12年6月25日 新聞)

**58歳 男性**

**2週間前怪我をしたが、ほっといたら膨らんで直らない。痛みはあまり強くない。**



**(平成元年 夏 佐渡 相川病院外来)**



2方向からレントゲン撮影



局所麻酔後、皮膚切開



ガラス片摘出